

冬期加温型バラ切花の夏期せん定法

県農業試験場園芸支場 花き花木部(現、農研センター農産園芸研究所花き部)

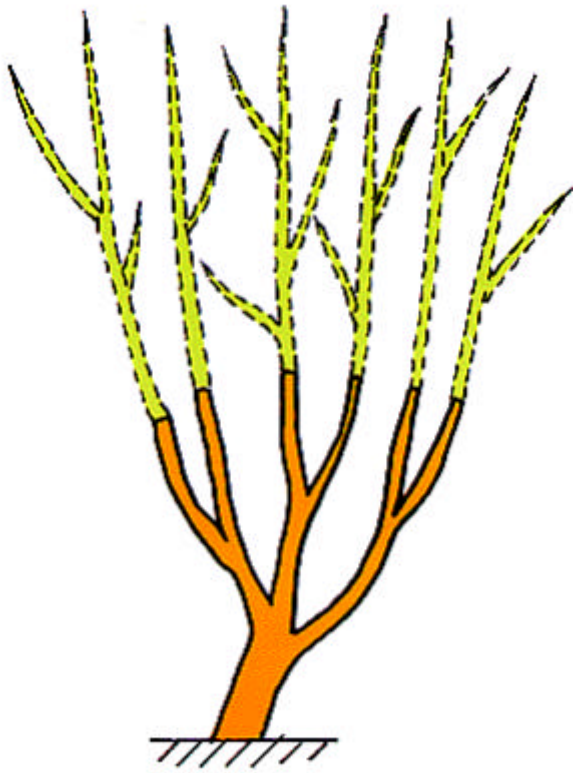
研究のねらい

冬期加温型のバラの切花栽培では、生育の旺盛な盛夏時にせん定を行うため、樹勢が衰えたり、枝が枯れ込むなどの障害が発生する。これは、従来行われてきた全枝切り戻しせん定では、樹体が大きいショックを受けるためと思われる。

このため、せん定の方法と土壌水分がバラの切花品質に及ぼす影響を検討し、適切な夏期せん定技術を確立する。

研究の成果

1. 品種キャラミアを用いて、全枝切り戻し、全枝折り曲げ、一部せん定折り曲げ(1株のうち太い枝2~3本を切り戻し他を降り曲げる)の三つのせん定方法と、せん定の前後1か月間、1日15mm程度の灌水を1~2日間隔(多灌水)、7~10日間隔(少灌水)の組み合わせで検討した。
2. 切花の品質は、全枝折り曲げと一部せん定折り曲げが優れ、切花本数も多かった。また葉数は多灌水の方が多かった。
3. このことから、冬期加温型切花の夏期せん定法としては、土壌水分を適度に保ち全枝を折り曲げる方法が樹体の受けるショックも小さく、良質の切花がえられる。



全枝切り戻し法

図1 全枝切り戻し法

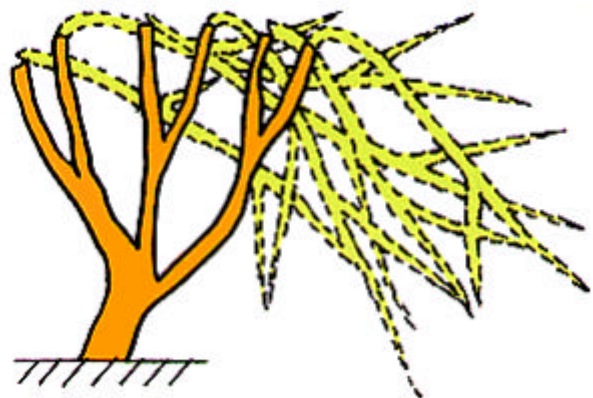


図2 全枝折り曲げ法

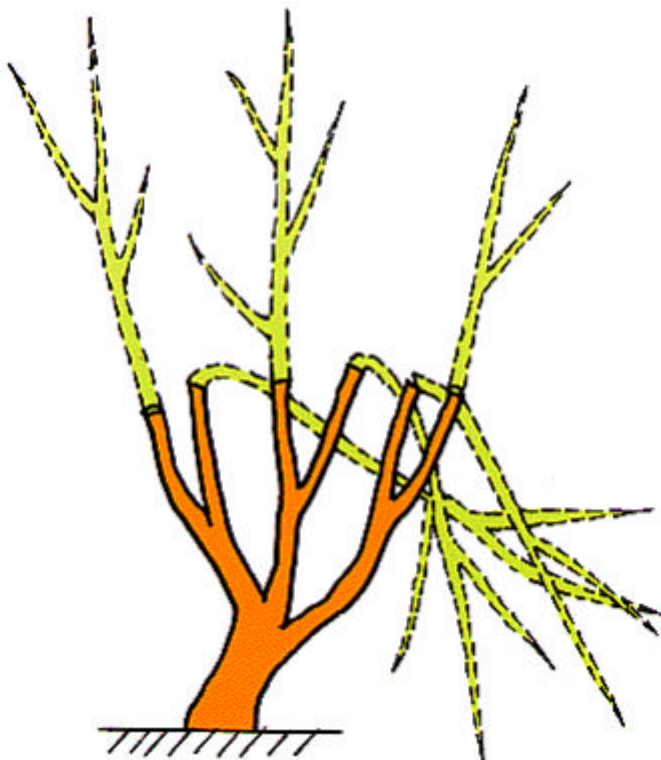


図3 一部せん定折り曲げ法

A: 切り戻し、B: 曲げ、C: 折り曲げ